

質問

抗がん剤治療を受けるにあたり、医師から「治療後に家族に薬が付かないように注意してください」と言われました。どのような注意が必要なのでしょう。

抗がん剤 周囲への影響



吉岡 俊彦

徳島大学病院
薬剤部薬剤師

回答

抗がん剤治療を行った後、家族と部屋を分けたり、物理的に距離を置いたりする必要は一切ありません。同じ部屋で過ごし会話や日常的なスキンシップを取っても薬の影響は及びません。

注意すべきなのは離れる距離ではなく、排せつ物や嘔吐物の取り扱いと投与後の注意期間です。多くの抗がん剤は投与終了から約48時間で大部分が体内から排せつされますが、この期間内の排せつ物や嘔吐物に微量の薬剤の成分が含まれます。こうした成分に家族が触れないための、日常生活における具体的な基本ルールは次の通りです。トイレは飛散防止のために男性も座って排尿し、ふたを閉めてから水を2回流してください。

投与後48時間は注意期間

排せつ物や嘔吐物で汚れている場合

洗濯:1回目(予洗い)

患者さんの洗濯物



洗濯:2回目

予洗いした患者さんの洗濯物



ご家族などの洗濯物



普段使いの洗剤で問題ありません

排せつ物や嘔吐物が床などに飛散した場合は、ビニール手袋を着用し清掃をします。範囲が広がらないように外側から内側に拭き取り、水や中性洗剤を染み込ませたトイレペーパーで拭いてください。手袋は2重にしたビニール袋に入れて

入浴は家族と同じ湯を使っても構いません。不要な汚れた洗濯物は2回洗濯を行ってください。1回目(予洗い)は患者の汚れた洗濯物のみで洗い、2回目は家族のと一緒に洗って問題ありません。

がん何でもクイズ

がんの「三大療法」に含まれないものはどれでしょう。

- ①手術療法②温熱療法③薬物療法
行こうよ！がん検診



がんに関する質問は
徳島がん対策センター
電話 088 (634) 6442
(平日午前8時半から午後5時まで) へ。



排せつ物などの取り扱い

内服薬がある場合は誤飲防止のため子どもの手の届かない高い場所に保管しましょう。薬剤の飛散を防ぐため、錠剤を粉砕したり、カプセルの中身を取り出したりしないでください。適切な対策を行えば、家族と一緒に安心して普段通りの生活を送ることができます。過度な恐怖や不安は必要ありません。